

## 舞洲 24 時間リレーマラソン

舞洲 24 時間リレーマラソンが 7 月 18～19 日に開催されました。今年は台風の影響で開始時間が 5 時間遅れ 19 時間に短縮されましたが、競技時間内に何周できるかを競い 1.4K のコース(ほぼ全力)を最大 18 名で延々とリレー(約 1 時間毎に出番が回る)していくという、とんでもない大会にもかかわらず、エントリー開始と同時に定員オーバーで締切りになるという超人気の大会でもあります。

総合成績(211チーム参加)

1位 ツバッキーと関西 AS 258周、2位 258周(タイム差 3'53"の大接戦)、3位 255周  
<神大陸上部関係>

4位、241周、聖薔薇十字騎士団(若手OB+現役チーム)初参加

12位、219周、カメカメ大行進B(新 27 回 矢野参加の職場チーム)昨年13位

17位、204周、KUT&FOB(中堅OBチーム)昨年7位

以下、それぞれのチームからの報告です。

### カメカメ大行進 B

新 27 回の矢野は、10 位入賞を目指している会社の職場チーム(カメカメ大行進B)で参加しました。今年は敬老モードとして 1 本置きに走らせてもらう予定だったのですが、主力メンバーの 1 人が直前に骨折、1 人が 1 本目に肉離れでリタイアというハプニングがあり、フル参戦せざるを得なくなりました。しかも、序盤は 10～13 位が 1 周毎に順位が入れ替わるという熾烈な入賞争いに巻き込まれ、この状態が続くと手抜きができないので、体がやばいと思っていたら、残念ながらどうか(本音はありがたいというか)10 位のチームが抜け出したので、中盤以降はペースが落ち着きました。チームは 12 位でしたが、戦略的には「楽しみを来年に取っておいた」ことになっています。

### KUT&FOB

中堅 OB 軍団の幹事を担いました新 50 回浅野がご報告します。

ここ数年は 20 名を超えるメンバーが集まり 2 チームで臨んでいましたが、今年は新 41 回～59 回までの 18 名でエントリーしました。残念なことに急遽仕事の都合等で 3 名が欠席となり、当日は 15 名での参加となりました。中には埼玉や愛媛から駆け付けるメンバーもいました。

矢野先輩の記事のとおり、今年は台風の影響で開始時間が遅れ、5 時間少ない 19 時間のレースとなりました。24 時間走れないことは残念でしたが、メンバーが減った OB チームとしてはある意味助け舟になったかと思います。また例年正午から走り始めるところ 17 時からのスタートで、気温も下がりました。太陽の直射も少なかったことから、レース序盤は快調に走れました。深夜はチームを半分に分け、片方が走る間に片方が仮眠をとる体制で乗り切り、朝からは 15 名全員で果てなきゴールを目指しました。



ゴールする新 56 回 川口 淳さん(右)

ここ 2 年ほど一桁順位を取っていましたが、今年は順位を気にすることなく各自が思い思いのペースで走り、怪我なく完走することを目標にしました。結果、怪我や脱落者はなく、また想定外の 17 位という好結果を得ることができました。

自身の学年の前後以外は現役時代と一緒に過ごしていないメンバーですが、上下関係を過度に意識することなく、年齢が離れた者同士でタスキをつなぎ、またみんなでテントの設営や応援、食事の準備を行うなど、和気あいあいと過ごすことは、大学の陸上部時代を思い出すとともに、社会人として非日常的な雰囲気もあり例年の楽しみです。特に大会終了後の流水麺そば+チャーシューの男飯は、走り切った自分へのご褒美として格別のおいしさでした。

また来年もメンバーを追加し、より楽しいチームでこの大会に参加したいと思いますので、『我こそは！』と思うOB・OGの方々、来年の3月ごろまでに浅野へご連絡ください(選手だけでなく、食事の準備等、サポーターとしての参加も大歓迎です)。

中堅 OB チーム参加者〔敬称略〕

新 41 回 定塚一人(長距離)、新 42 回 三村義雄(長距離)、小室克敏(長距離)、藤川和彦(中距離)

新 43 回 藤原孝洋(長距離)、松村英治(中距離)、細川泰宏(短距離)

新 44 回 田中秀明(投擲)、新 48 回 伊藤伸朗(短距離)、新 50 回 浅野孝文(中距離)

新 52 回 上島啓之(投擲)、新 54 回 桂 聡史(長距離)、新 55 回 村岡 悟(長距離)

新 56 回 境 芳樹(長距離)、川口 淳(長距離)

## 聖薔薇十字騎士団

こんにちは、新62回の関口です。先輩方から24時間リレーマラソンの感想を書いてほしいとのご依頼を頂きましたので、原稿を書かせて頂きます。

同じく新 62 回の嶋田が以前から出場したいと言っていたことがきっかけとなり、彼が中心となって準備をし今回この大会に参加しました。サポートメンバーも含め、メンバーは、

新 61 回 黒島康平、東 達也

新 62 回 嶋田 凌、日比鷹平・笹田大祐・関口泰樹

新 63 回 岡野達哉、山口康樹 新 64 回 阿賀康生

新 65 回 丸岡克成、成瀬 亮、植田悠貴、

新 66 回 濱野 拳、坂元亮介、澤田将希

の15名でした。

久しぶりにみんなが集まったこともあり、同窓会のような形で、わくわくしながら当日のテントなどの準備を始め、午後5時に24時間リレーマラソンが始まりました。今年は台風の影響でスタートが正午から5時間遅れたことにより、涼しい時間から走り始めることが出来ました。笹田・植田はその日に開催されているミドル新歓後に合流することになっていたため、その他のメンバーを二つのチームに分け、1人1周 1.4 キロをチーム内で2週した後に次のチームに交代するという形で走り始めました。

テントにぶら下げたホワイトボードにそれぞれのベストタイムとワーストタイムを書いていったため、それぞれのスプリットタイムをみんなが常に把握していたので、タイムを意識する中で走り続けました。1本目を終えて残り時間がまだ 18 時間以上あることに愕然としている OB を横目に、現役生は快走していました。しだいに時間が経つにつれて、各チームの順位が明らかになり、僕らのチームは4位を走っていることがわかりました。みんなで入賞の商品が豪華なことを期待して、そこから俄然やる気を出して頑張りました。現役生がタイムを稼いでいい順位を取ろうとしているところ、練習を全くせずに臨んだ OB 達はその貯金を無駄にしないように、もう必死です。現役時代さながらの安定感で走る東さん、相変わらずのポテンシャルを発揮する黒島さん、とりあえず気合いで走る嶋田と僕、なぜか現役生並に快走する山口といったところです。現役生たちはまだまだ元気です。





夜になり、5位を10分ほど引き離して走っていたはずですが、その差が次第につまりはじめ、差が2分を切るまでになりました。この後、5位のチームとの差を常に把握しながら本当の試合のように相手を意識して走る時間が続きました。4位になるということが大きなモチベーションとなってくれたお蔭で、ただなんとなく走り続けるのではなく、勝負をわくわくしながら楽しめました。その後、2分差前後の差を維持したまま、満身創痍の夜明けを迎えました。だんだん現役生も身体にガタがきていたようです。そんな中、最初から最後まで、かなりのハイクオリティーで走ったのが、日比くんでした。日比くんと同学年の嶋田と僕が見たこれまでにしても、トップ3には入るぐらいの走りの安定感とキレを見せ、須磨学っぷりを遺憾なく発揮していました。

開始から約16時間、残り約3時間となったあたりから、一人また一人とOBがリタイアし、現役生も少しずつメンバーがダウンしていく中、なんとかかんとか5位との差を広げました。そして、ついに終了時刻の正午を迎え、最終走者の日比がゴールし、歓喜となりました。入賞した他のチームはランニングシャツにマラソンシューズで人数は20人、かたや僕たちのチームは普通のシャツにランニングシューズでメンバーは14人という中で走ったので、なかなかきつかったですが、現役生が最後まで快走し、無事に4位でゴール出来ました。

長く厳しい24時間マラソンでしたが、終わってみればすごく楽しかったです。大学を卒業してもみんなとワイワイはしゃぎながら、こんなことが出来るのは最高でした。



4位に入賞した聖薔薇十字騎士団(若手OB+現役チーム)の面々